

# G空間情報センター

ニュースレター 第26号 2021年7月発行

## 【目次】

- [1. TOPICS「国土交通データプラットフォームとG空間情報センター」](#)
- [2. 上位アクセス状況\(集計期間：2021.5.1-6.30\)](#)
- [3. 最新のお知らせ](#)
- [4. UDC2020 受賞作品：マルチプラットフォーム対応の応急危険度判定支援ツール](#)
- [5. 注目のコンテンツ紹介](#)
- [6. G空間情報センターのデータ掲載管理者の皆様へ](#)

## 1. TOPICS「国土交通データプラットフォームとG空間情報センター」

国土交通省では、独自に保有する多くのデータと民間等のデータ連携を実現し、業務の効率化や産学官連携のイノベーションを創出することを目指して、国土交通データプラットフォーム（以降、国交 DPF といいます）を2020年4月から公開しています。国交 DPF は、Society 5.0 が目指す、フィジカル（現実）空間をサイバー（仮想）空間で再現するデジタルツインにあたります。これまでに、関連施策との連携等のため、数回のバージョンアップが実施されています。AIGID は、国交 DPF の整備・開発に技術協力しており、開発者の観点から2021年5月に行われたバージョンアップ（Ver1.4）の特徴と、国交 DPF と G 空間情報センターの関わりをご説明します。

### 1. 国の直轄工事の3次元データ取扱件数増

当初から国の工事データの検索、地図表示は可能でしたが、Ver1.4 では取扱件数が更に570件ほど増え、3次元点群データ、BIM/CIM（Building/ Construction Information Modeling, Management）モデルの表示はもちろんデータダウンロードも可能となりました。これにより構造物の3次元形状を Web ブラウザ上で閲覧できます。



国土交通省 Ver1.4 参考資料より引用

## 2. My City Construction (MCC) との連携

AIGID が別途提供しているサービス"MCC"とシステム間連携し、一部地方自治体の工事データの検索、表示、ダウンロードができるようになりました。

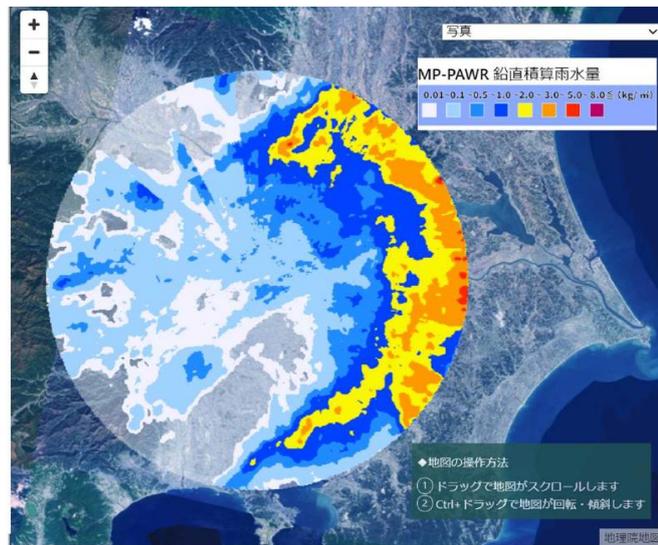


国土交通省 Ver1.4 参考資料より引用

## 3. 連携データの追加

30分毎に更新される SIP4D（情報通信研究機構・防災科学技術研究所）の鉛直積算雨量等、統合災害情報システム DiMAPS の災害情報\*、水文水質データベースの雨量観測所、水位流量観測所位置データ\*が新たに連携され、社会資本情報プラットフォームからはインフラ維持管理データ、気象観測データ降水量の日合計等のデータが追加されました。

\* サンプルデータを利用



国土交通省 Ver1.4 参考資料より引用

このように、国交 DPF は着実に他のサービス等とのデータ連携を広げ、文字通りプラットフォームとして、国土交通省及び各関係機関が保有する様々なデータを検索、表示、ダウンロード可能としています。国交 DPF は自身でこれらデータを保有しているのではなく、API（アプリケーション・プログラミング・インタフェース）でデータを持つ各システムと連携しています。連携先のシステムが API を持たない場合は、API を持ったデータ保管場所でもある G 空間情報センターにデータを格納することでデータ連携を実現している例がいくつかあります。このような形で、G 空間情報センターは、カタログサービス機能を国交 DPF に提供し、国交 DPF のデータ連携拡大に貢献しています。

国交 DPF は今後も機能の向上、データ連携拡充が計画されていますので、G 空間情報センターのデータカタログもより一層充足されていく見込みです。今後の各プラットフォームと G 空間情報センターとの連携に是非ご期待ください。

※参考：国土交通データプラットフォーム

（サイト） <https://www.mlit-data.jp/platform/>

（報道発表サイト） [https://www.mlit.go.jp/tec/tec\\_tk\\_000066.html](https://www.mlit.go.jp/tec/tec_tk_000066.html)

（お問合せ先）国土交通省大臣官房技術調査課、TEL 03-5253-8111

## 2.上位アクセス状況(集計期間：2021.5.1-6.30)

登録ユーザー数	8,882 名
期間アクセス数	442,952
登録組織数	467 件
データセット数	7,157 件
ファイル数	55,056 件

## 人気のデータセット

1	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京都 23 区 (FBX 2020 年度)
2	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京都 23 区
3	3D 都市モデル (Project PLATEAU) ポータルサイト
4	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京都 23 区 (CityGML 2020 年度)
5	全国の人流オープンデータ (1km メッシュ、市町村単位発地別)
6	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京都 23 区 (FBX 4 次メッシュ 2020 年度)
7	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京都 23 区 (OBJ 2020 年度)
8	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京都 23 区 (3D Tiles / GeoPackage / JSON 2020 年度)
9	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京都 23 区 (OBJ 4 次メッシュ 2020 年度)
10	静岡県 富士山南東部・伊豆東部 点群データ

## 3. 最新のお知らせ

G空間情報センターの最新のお知らせは[こちら](#)

最新のデータ公開情報は[こちら](#)

8月23日(月)・24日(火) 「GIS初めて講座」をオンライン開催します！

詳細・お申込みは[こちら](#)

最新のイベントについては、ぜひ Peatix でフォローをお願いします☆

**G空間情報センターイベント最新情報は[こちら](#)からフォロー(Peatix)**

## 4. UDC2020 受賞作品：マルチプラットフォーム対応の応急危険度判定支援ツール

地域の課題解決に貢献する作品を表彰する「アーバンデータチャレンジ (UDC) 2020」において、商用サービスや学術研究にスポットを当て新設された「ビジネス・プロフェッショナル部門」で優秀賞を受賞された『マルチプラットフォーム対応の応急危険度判定支援ツール』！

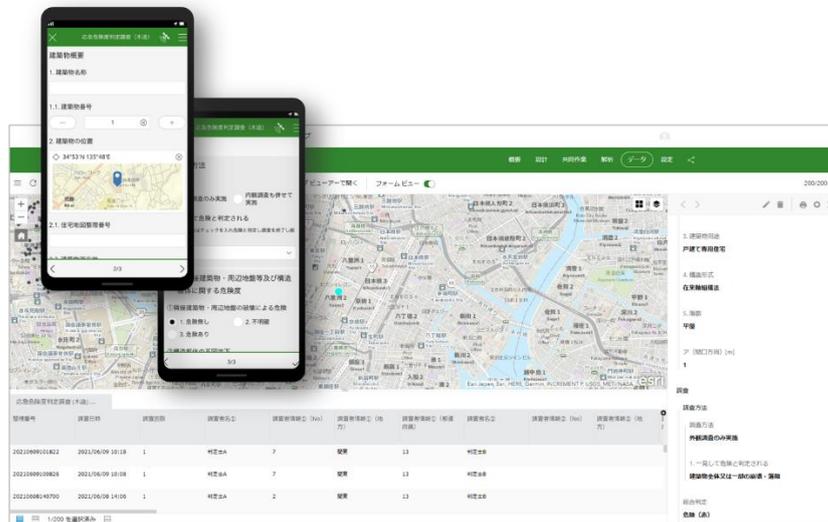
当該サービスにおけるデータを使った社会課題解決のポイントや今後の展開などについて、開発元である ESRI ジャパン株式会社様よりご寄稿いただきました。

大地震が発生すると、人命救助や被害状況の把握、そして復旧から復興に向けて複数の現地調査が実施されます。発災直後に最も早く実施される調査は、被災した建築物に起因する倒壊や落下物等の二次災害を防止するための「被災建築物応急危険度判定」です。この調査は応急危険度判定士（以下、判定士）によって紙ベースで行われており、作業負担の低減や判定フローそのものの効率化が長年の課題でした。

こうした課題に対し、国立研究開発法人 建築研究所と ESRI ジャパン株式会社はクラウド GIS である ArcGIS Online を活用した応急危険度判定支援ツールを開発し公開しています。本支援ツールは判定士、実施本部の双方にメリットを提供します。

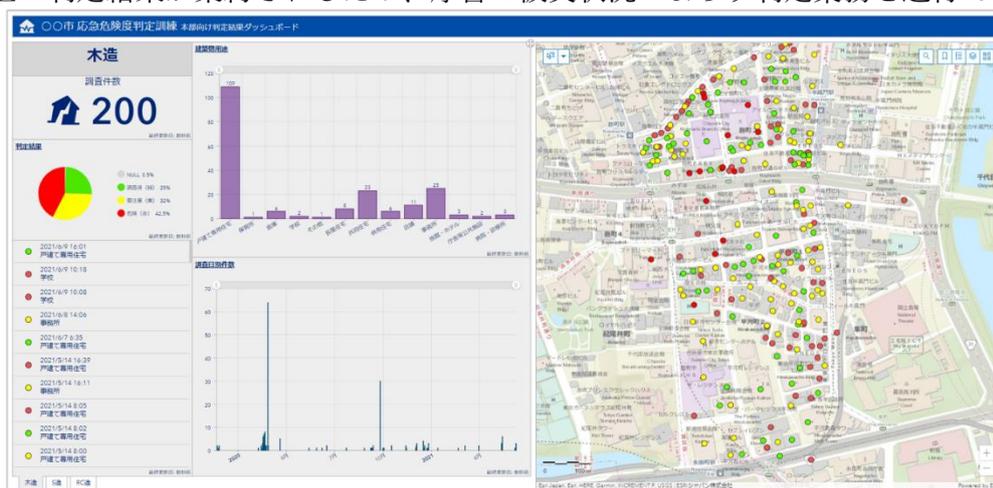
## 判定士にとってのメリット

- ・ 判定を実施する建築物の位置情報を GPS で取得するため、土地勘がない判定士でも建築物の位置の特定が容易になる
- ・ プルダウン等の入力方式の採用により入力ミスが軽減される
- ・ 判定結果はクラウド上で自動的に集計・可視化されるため、判定士自身が集計作業を行う必要がなく、作業負担が軽減される



## 判定実施本部(自治体)にとってのメリット

- ・ 判定士が使用するアプリは iOS、Android、Windows といった主な OS に対応しておりデバイスの調達が容易であるため、様々な調査規模に柔軟に対応できる
- ・ Web ブラウザで判定結果をリアルタイムで確認できるため、判定実施本部では最新の状況に基づいた意思決定ができる
- ・ クラウド上に判定結果が集約されるため、庁舎の被災状況によらず判定業務を遂行できる



本支援ツールは ESRI ジャパン株式会社の Web サイトよりダウンロード提供しています。詳細な利用方法は[ダウンロードページ](#)に掲載されている利用ガイドをご参照ください(利用にあたっては ArcGIS Online の指定ユーザーライセンスが必要です)。

本支援ツールについてご不明な点などがございましたら、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。私たちの取り組みが効果的な災害対応の一助になれば幸いです。

<お問い合わせ先>

ESRI ジャパン株式会社 プラットフォームソリューショングループ

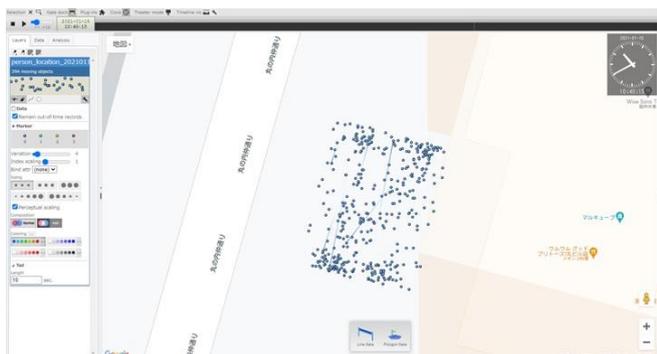
[担当者] 石井

[TEL] 03-3222-3941

[問い合わせフォーム] <https://www.esri.jp/form/inquiry/>

## 5. 注目のコンテンツ紹介

### 全国の人流オープンデータ（1km メッシュ、市町村単位発地別）



2019年・2020年を対象とした、全国の「1kmメッシュ別の滞在人口データ」と「市町村単位発地別の滞在人口データ」です。滞在人口は1ヶ月間における1日あたりの平均値となります。

図は、2019年5月の休日の人出と2020年5月の休日の人出を比較しました。観光地や大きな駅周辺の滞在人口が大幅に減少したのが確認できます。

対象データセットは[こちら](#)

## 6. G 空間情報センターのデータ掲載管理者の皆様へ

### ■データ掲載管理者向け情報提供について

G空間情報センターでは、データ提供・管理者様向けの管理者限定コンテンツを準備中です。提供コンテンツは、システムメンテナンス等の管理者向けお役立ち情報を予定しております。管理者限定コンテンツの配信をご希望の方は、下記より必要情報ご入力いただきお申込みください。

また、システムメンテナンス情報以外に、提供を期待される情報など、皆さまからのご意見も併せて提供いただけますと幸いです。

データ掲載管理者向け情報提供（無料）申込は[こちら](#)から（Google フォーム）

### ■災害情報に関する推奨タグについて

災害関連情報を掲載されている方は、以下のタグ付けをされることを推奨いたします。

「（西暦）年」「月」「災害」「地域（都道府県）名」「地域（市区町村）名」

\*実際のデータと関連しないタグの場合は、事務局よりご連絡のうえ修正いただく場合がありますので、ご了承ください。

### ご意見・ご要望について

G空間情報センターは、高度な地理空間情報社会の実現と皆さまの事業の発展に寄与・貢献できることを目標としています。

当センターへのご要望、ご意見、ご助言等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

G空間情報センターのユーザーアカウント登録は、[こちら](#)

G空間情報センターのご要望、ご意見は、[こちら](#)

一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会(AIGID)

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-10-5 代々木伊藤ローヤルコーポ 304号室

メール: info@geospatial.jp

TEL: 03-6455-1845

※当ニュースレターの内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。